



平成 29 年 9 月 15 日

各 位

本社所在地 東京都新宿区北新宿二丁目 21 番 1 号
会社名 RIZAP グループ 株式会社
代表者 代表取締役社長 瀬戸 健
コード番号 2928 札幌証券取引所アンビシャス
問合せ先 取締役 香西 哲雄
電話番号 03-5337-1337
U R L <https://www.rizapgroup.com/>

子会社個別業績および予想の差異等（子会社において開示済み）に関するお知らせ

このたび、当社子会社（国内の金融商品取引所に上場されている子会社）において既に開示済みの適時開示等につきまして確認したところ、当社で開示すべき開示事項のうち以下の開示がなされておりませんでしたので、このたびまとめて開示いたします。なお、当社の連結業績予想に及ぼす影響はございません。

記

1. 当社子会社（マルコ株式会社）の個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

当社連結子会社であるマルコ株式会社（証券コード：9980・東証 2 部）が本年 5 月 15 日に公表いたしました、平成 29 年 3 月期個別業績に係る実績値につきまして、下記の通りお知らせいたします。

平成 29 年 3 月期実績値（個別）と前期（平成 28 年 3 月期）実績値との差異

（単位：百万円）

| | 売上収益 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1 株当たり当期純利益 |
|---------------------------|--------|------|------|--------|-------------|
| 前期実績（A） （平成 28 年 3 月期） | 13,465 | △564 | △486 | △3,702 | △121 円 46 銭 |
| 前期実績（B） （平成 29 年 3 月期） | 13,383 | 148 | 142 | 266 | 3 円 74 銭 |
| 増減額（B－A） | △82 | 712 | 628 | 3,968 | - |
| 増減率（%） | △0.6 | - | - | - | - |

・差異の理由

事業構造改革を推進するなか、不採算店舗の統廃合や経費の見直しに全社を挙げて取り組んだ結果、売上原価及び販売費一般管理費において改善が進み、更に、本社土地・建物の売却による特別利益4億11百万円等が計上された結果、黒字化を達成いたしました。

2. 平成26年9月29日 株式会社イデアインターナショナル
平成27年6月期通期個別業績予想に関するお知らせ
3. 平成27年8月11日 株式会社イデアインターナショナル
業績予想値と実績値との差異及び営業外費用・特別損失の発生に関するお知らせ
4. 平成28年5月13日 SDエンターテイメント株式会社
平成28年3月期通期業績予想と実績値の差異及び特別損失の発生、配当予想の修正並びに役員報酬の減額等に関するお知らせ
5. 平成28年5月13日 夢展望株式会社
個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ
6. 平成28年10月11日 株式会社パスポート
第2四半期業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ
7. 平成29年5月12日 SDエンターテイメント株式会社
業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ
8. 平成29年5月12日 株式会社パスポート
業績予想の修正に関するお知らせ
9. 平成29年5月15日 株式会社イデアインターナショナル
通期業績予想の修正に関するお知らせ
10. 平成29年5月15日 株式会社ジーンズメイト
業績予想の開示に関するお知らせ
11. 平成29年5月16日 夢展望株式会社
個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

以上



各 位

JASDAQ

平成 26 年 9 月 29 日



株式会社アイデアインターナショナル
代表取締役社長 森 正 人
(コード番号: 3140 JASDAQ)
問 合 せ 先 : 取 締 役 経 営 情 報 部 長
松 原 元 成
(TEL 03-5446-9505)

平成 27 年 6 月期通期個別業績予想に関するお知らせ

平成 26 年 8 月 12 日に開示を見送ることとしておりました平成 27 年 6 月期個別通期業績予想について下記のとおりお知らせいたします。

記

当社は平成 27 年 6 月期個別通期業績予想につきまして、本年 2 月にリレント化粧品を合併、本年 6 月にクレアベルデの解散、また健康コーポレーショングループとの取引拡大等、短期間の中に業績に大きな影響をきたす外部要因が増え、また生産管理体制の改革等今までに着手したことのない内部要因もあり、情報の精査に時間を要することから、本年 8 月 12 日に開示いたしました平成 26 年 6 月期決算短信においては平成 27 年 6 月期個別通期業績予想を見送ることとしておりました。

その後、情報を精査し、現時点で合理的と考えられる算定根拠に基づき業績見通しを作成すると以下となります。

平成 27 年 6 月期通期の個別業績予想値 (平成 26 年 7 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日)

(単位: 百万円)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|--|-------|------|------|-------|-----------------|
| 前 回 発 表 予 想 (A) | - | - | - | - | - |
| 今 回 発 表 実 績 (B) | 5,219 | 292 | 255 | 235 | 78 円 64 銭 |
| 増 減 額 (B - A) | - | - | - | - | - |
| 増 減 率 (%) | - | - | - | - | - |
| (ご 参 考) 前 期 実 績 (平 成 2 6 年 6 月 期) | 5,031 | 46 | △16 | △77 | △38 円 1 銭 |

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上



各 位

JASDAQ

平成 27 年 8 月 11 日



株式会社イデアインターナショナル
代表取締役社長 森 正 人
(コード番号：3140 JASDAQ)
問 合 せ 先：取締役経営情報部長
松 原 元 成
(TEL 03-5446-9505)

業績予想値と実績値との差異及び営業外費用・特別損失の発生に関するお知らせ

平成 26 年 9 月 29 日に公表いたしました「平成 27 年 6 月期通期個別業績予想に関するお知らせ」の業績予想値と、本日発表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、平成 27 年 6 月期において、下記のとおり営業外費用および特別損失が発生することになりましたので、その概要をお知らせいたします。

記

1. 平成 27 年 6 月期通期の個別業績予想値と実績値の差異（平成 26 年 7 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日）
(単位：百万円)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|------------------------------|-------|-------|-------|-------|-----------------|
| 前回発表予想 (A) | 5,219 | 292 | 255 | 235 | 40 円 59 銭 |
| 今回発表実績 (B) | 5,970 | 249 | 164 | 103 | 17 円 76 銭 |
| 増減額 (B - A) | 750 | △43 | △91 | △132 | — |
| 増減率 (%) | 14.3 | △14.8 | △35.8 | △56.1 | — |
| (ご参考) 前期実績 (平成 26 年 6 月期) | 5,031 | 45 | △18 | △79 | △19 円 34 銭 |

(注) 平成 27 年 7 月 1 日付で普通株式 1 株を 2 株の割合で株式分割を行っております。そのため、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1 株当たり当期純利益を算定しております。

2. 差異の理由

売上高につきましては、キッチン家電商品やトラベル商品が好調に推移し、リレント化粧品関連販売も増加したことにより前回予想に比べ 750 百万円上回ることとなりました。

営業利益につきましては、前期より引き続き実施しているコスト削減策の効果があったものの、円安の影響による粗利率の低下により、前回予想に比べ 43 百万円下回ることとなりました。

経常利益につきましては、為替差損等の発生により、前回予想に比べ 91 百万円下回ることとなりました。

また当期純利益につきましては、保険解約損及び減損損失の発生により、前回予想に比べ 132 百万円下回ることとなりました。

3. 営業外費用・特別損失の発生

(1) 営業外費用の内容

当社は、平成 27 年 6 月期（平成 26 年 7 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日）において、為替相場が円安に振れたことに伴い為替差損 43 百万円を計上いたしました。

(2) 特別損失の内容

当社は、平成 27 年 6 月期（平成 26 年 7 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日）において、役員生命保険の解約に伴う保険解約損 12 百万円、一部店舗の閉鎖及び小売事業に係る資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減損したことにより減損損失 28 百万円を計上いたしました。

以 上



平成 28 年 5 月 13 日

各 位

会 社 名 SDエンターテイメント株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 河野 正
 (JASDAQ コード 4650)
 問 合 せ 先 常 務 取 締 役 吉住 実
 電 話 番 号 011-241-3951
 U R L <http://www.sugai-dinos.jp/>

平成 28 年 3 月 期 通 期 業 績 予 想 と 実 績 値 の 差 異 及 び 特 別 損 失 の 発 生、
 配 当 予 想 の 修 正 並 び に 役 員 報 酬 の 減 額 等 に 関 す る お 知 ら せ

当社は、平成 28 年 3 月 期 において、平成 27 年 10 月 22 日に公表しました通期業績予想と実績値との差異、特別損失の計上及び平成 27 年 5 月 12 日に公表しました配当予想の修正並びに役員報酬の減額を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想と実績値の差異

(1)平成 28 年 3 月 期 連 結 業 績 予 想 数 値 と 実 績 値 の 差 異 (平 成 27 年 4 月 1 日 ～ 平 成 28 年 3 月 31 日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する当期純 利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-------------------------|-------|--------|-------|-------------------------|----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想(A) | 8,800 | 460 | 320 | 280 | 31.22 |
| 今回実績値(B) | 8,198 | 132 | △ 34 | △ 94 | △ 10.86 |
| 増減額(B-A) | △ 602 | △ 328 | △ 354 | △ 374 | |
| 増減率(%) | △ 6.8 | △ 71.3 | - | - | |
| (ご参考)前期実績 (平成27年3月期) | - | - | - | - | - |

(2)平成 28 年 3 月 期 個 別 業 績 予 想 数 値 と 実 績 値 の 差 異 (平 成 27 年 4 月 1 日 ～ 平 成 28 年 3 月 31 日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-------------------------|-------|--------|--------|-------|----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想(A) | 8,000 | 400 | 260 | 250 | 27.88 |
| 今回実績値(B) | 7,292 | 180 | 30 | △ 55 | △ 6.35 |
| 増減額(B-A) | △ 708 | △ 220 | △ 230 | △ 305 | |
| 増減率(%) | △ 8.9 | △ 55.0 | △ 88.5 | - | |
| (ご参考)前期実績 (平成27年3月期) | 7,363 | 322 | 178 | 285 | 33.50 |

(3)差異の理由

当期の業績は、シネマ事業及びボウリング事業は比較的堅調に推移しましたが、新規プログラムで上昇を目論んでいたフィットネス事業及び改装休業影響の出たGAME事業が予想を下回りました。また、1年で一番稼働の良い第4四半期において、第3四半期までのマイナスを挽回する目論見でもありましたが、競合店の影響等もあり、対予想比のマイナス幅はかえって増加してしまいました。

利益面では、第2四半期に固定資産除却損等(特別損失 38 百万円)及び第4四半期に減損損失(特別損失 34 百万円)を計上したこと、また、前年7月より子会社とした株式会社フォーユー及びその子会社に関して、主要事業である介護事業・通信テレマーケティング事業ともに、事業立て直し期間中であり、3月によりやく単月黒字転換したものの、損失が拡大したことなどにより、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益とも前回発表予想を下回ることになりました。

2. 特別損失の計上

平成 28 年3月期におきまして、将来の店舗閉鎖(1店舗)及び土地の評価損(1ヶ所)等に伴う、固定資産の減損損失 34 百万円を特別損失に計上いたします。

3. 配当予想の修正

| | 年間配当金 | | |
|----------------------------|--------|--------|--------|
| | 第2四半期末 | 期末 | 合計 |
| 前 回 予 想 | — | 8円86銭 | 8円86銭 |
| 今 回 修 正 予 想 | — | 0円00銭 | 0円00銭 |
| 当 期 実 績 | 0円00銭 | — | — |
| 前 期 実 績 (平成 27 年 3 月 期) | 0円00銭 | 13円40銭 | 13円40銭 |

修正理由

当社は、「株主への利益還元を重要な経営課題の一つと位置づけており、機動的な利益還元と、経営財務の安定性確保の観点から、当期純利益の水準に応じた業績連動型配当の実施を基本方針とし、配当性向 10%～50%目処とすることを基本方針とすることにしており、当期においては連結業績予想に基づいた連結配当性向 30%を目安に配当額を8円 86 銭とする予定でございましたが、業績予想と実績値の差異に記載したとおり、親会社株主に帰属する当期純損失となり、当社が今なすべきことは内部留保の充実を図り企業体力の増強を図ることであると経営判断し、誠に遺憾ながら、無配とさせていただきます。

4. 役員報酬の減額

この度の業績の下方修正及び配当の無配を真摯に受け止め、その経営責任を明確にするため、役員報酬の減額を実施いたします。

(1)内容

代表取締役社長 現報酬月額より 50%を減額
 常務取締役 現報酬月額より 30%を減額

(2)対象期間

平成 28 年5月支給分から平成 28 年7月支給分までの3ヶ月間

当社は早期の業績回復に向け、一丸となって営業強化に邁進していく所存でございます。

今後とも株主の皆様をはじめとする関係各位のご支援を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

以 上



平成 28 年 5 月 13 日

各 位

会 社 名 夢 展 望 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 岡 隆 宏
(コード番号：3185 東証マザーズ)
問 合 せ 先 専 務 取 締 役 管 理 本 部 長 田 中 啓 晴
(TEL. 072-761-9293)

個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

平成 28 年 3 月期（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）の個別業績と前期実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 28 年 3 月期 通期個別業績と前期実績値との差異

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|-----------------------------------|--------------|-------------|-------------|-----------------|
| 平成 27 年 3 月期 通期実績 (A) | 百万円 2,116 | 百万円 △639 | 百万円 △749 | 円 銭 △526.02 |
| 平成 28 年 3 月期 通期実績 (B) | 百万円 2,460 | 百万円 △378 | 百万円 △570 | 円 銭 △107.61 |
| (参考) 平成 28 年 3 月期 第 2 四半期実績 | 百万円 1,392 | 百万円 △105 | 百万円 △125 | 円 銭 △23.70 |

※ 平成 27 年 3 月期は決算期変更に伴い 6 ヶ月となっております。

※ 本記載の当期実績は、この開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続きが実施中です。

※ 本記載数値情報は、表示単位未満の端数切捨て、増減率の小数点以下第 2 位切捨て小数点第 1 位まで記載しております。

2. 差異の理由

衣料品販売事業、実店舗事業、その他事業（卸売事業等）における減収が主たる要因となっております。ブランドイメージの刷新や、販売費及び一般管理費の削減等の施策を実施し、効果が表れてはきているものの、特別損失として、倉庫移転費用15百万円や、固定資産の除却40百万円、システムの入替え等による将来使用停止見込による減損損失134百万円を計上した事により、当期純損失となっております。

以上



平成28年10月11日

各位

上場会社名 株式会社 パスポート
 代表者名 代表取締役社長 水野 純
 (コード番号 7577)
 問合せ先責任者 常務取締役管理本部長
 兼総合企画部長 久保田 勝美
 TEL (03) 3494-4497

第2四半期業績予想と実績値との差異及び 通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成28年4月11日に公表いたしました平成29年3月期第2四半期累計期間(平成28年3月1日～平成28年8月31日)の業績予想と実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせします。

また、平成29年3月期(平成28年3月1日～平成29年3月31日)通期業績予想を、下記の通り修正いたしますので、併せてお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

(1) 平成29年3月期第2四半期累計期間の業績予想 と実績値との差異 (平成28年3月1日～平成28年8月31日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当り 当期純利益 |
|-------------------------|-----------|----------|----------|----------|---------------|
| 前回予想 (A) | 5,100 百万円 | 90 百万円 | 70 百万円 | 30 百万円 | 2.83 円 |
| 実績 (B) | 5,145 百万円 | △355 百万円 | △390 百万円 | △567 百万円 | △53.52 円 |
| 増減額 (B-A) | 45 百万円 | △445 百万円 | △460 百万円 | △597 百万円 | — |
| 増減率(%) | 0.9 | — | — | — | — |
| (ご参考)前期実績 (平成28年2月期) | 5,511 百万円 | 73 百万円 | 58 百万円 | 6 百万円 | 1.31 円 |

(2) 平成29年3月期通期業績予想の修正 (平成28年3月1日～平成29年3月31日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当り 当期純利益 |
|-------------------------|------------|----------|----------|----------|---------------|
| 前回予想 (A) | 10,400 百万円 | 180 百万円 | 130 百万円 | 40 百万円 | 7.92 円 |
| 今回修正 (B) | 11,100 百万円 | △310 百万円 | △380 百万円 | △640 百万円 | △50.41 円 |
| 増減額 (B-A) | 700 百万円 | △490 百万円 | △510 百万円 | △680 百万円 | — |
| 増減率(%) | 6.7 | — | — | — | — |
| (ご参考)前期実績 (平成28年2月期) | 10,934 百万円 | 91 百万円 | 59 百万円 | △142 百万円 | △28.22 円 |

(注) 前回予想は、平成29年2月期で予想しておりましたが、今回修正は、平成28年6月27日に開示の「決算期(事業年度末)の変更及び定款一部変更に関するお知らせ」とおり、平成28年3月1日から平成29年3月31日までの13ヶ月の変則決算となっております。

2. 差異及び修正の理由

当社は、平成 28 年 5 月 26 日開催の株主総会にて、RIZAP グループ株式会社との資本業務提携契約の締結及び第三者割当による新株式発行増資が決議承認され、RIZAP グループ株式会社の連結子会社となっております。こうした背景のもとで、迅速な業績回復を目指し、営業不振店の退店や滞留在庫処分に積極的に取り組んだ結果、粗利益率の低下や平成 28 年 7 月 11 日に公表しました「特別損失の計上及び繰延税金資産の取り崩しに関するお知らせ」のとおり、第 1 四半期累計期間において特別損失を計上したこと、および繰延税金資産の取り崩しをしたことにより、当第 2 四半期累計期間の業績は当初の予想を下回る結果となりました。その後、営業組織の再編や業績回復に向けた店舗在庫の適正化、VMD (ビジュアルマーチャンダイジング) 強化の施策等、具体的な業績回復シナリオに取り組んでおります。

通期の業績予想につきましては、上記業績をふまえ、下期からの改装等『Passport』ブランドのリブランディングの施策による包装費や減価償却費等の費用の増加やセールスプロモーション等の効果を勘案し、更に平成 28 年 6 月 27 日に開示しましたとおり、決算期変更に伴う影響額を見積もり修正いたしました。

(注) 上記の業績予想につきましては、当社が本資料の作成日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、当社を取り巻くさまざまな要因により、記述されている業績見通しとは異なる可能性があります。



平成 29 年 5 月 12 日

各 位

会 社 名 SDエンターテイメント株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 吉住 実
 (JASDAQ コード 4650)
 問 合 せ 先 管 理 本 部 長 荒 井 隆 夫
 電 話 番 号 011-241-3951
 U R L <http://www.sugai-dinos.jp/>

業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 3 月期において、下記のとおり、最近の業績動向を踏まえ、平成 28 年 5 月 13 日に公表しました業績予想及び配当予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1)平成 29 年 3 月期連結業績予想数値の修正(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する当期純 利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-------------------------|-------|--------|--------|-------------------------|----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想(A) | 8,890 | 340 | 210 | 170 | 19.59 |
| 今回実績値(B) | 8,281 | 188 | 52 | 20 | 2.28 |
| 増減額(B-A) | △ 609 | △ 152 | △ 158 | △ 150 | |
| 増減率(%) | △ 6.9 | △ 44.7 | △ 75.2 | △ 88.2 | |
| (ご参考)前期実績 (平成28年3月期) | 8,198 | 132 | △ 34 | △ 94 | △ 10.93 |

(2)平成 29 年 3 月期個別業績予想数値の修正(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-------------------------|-------|--------|--------|--------|----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想(A) | 7,560 | 300 | 180 | 140 | 16.13 |
| 今回実績値(B) | 7,022 | 182 | 56 | 18 | 2.05 |
| 増減額(B-A) | △ 538 | △ 118 | △ 124 | △ 122 | |
| 増減率(%) | △ 7.1 | △ 39.3 | △ 68.9 | △ 87.1 | |
| (ご参考)前期実績 (平成28年3月期) | 7,292 | 180 | 30 | △ 55 | △ 6.40 |

2. 修正理由

当期の業績については、売上高・営業利益については前期比増収増益、経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益については黒字転換ができましたが、下記の通りの理由で、期初に公表した業績予想を下回る見込みとなりました。

当期の業績は、シネマ事業は比較的堅調に推移しましたが、期初業績予想に盛り込んでいたフ

フィットネスの新店舗2店の出店を次期に延期したことに加え、前回予想に折込み済でなかったフィットネス店舗の移転に伴う一時休業(第3四半期会計期間中2ヶ月間)があったことやゲーム事業におけるネットキャッチャーの期待はずれ(12月末にて一時営業休止し、次期移転再開に向け運営見直し着手中)、さらには営業基盤の中心である札幌市における10月及び12月の記録的な大雪の影響により、客足が遠のいたこともあり、ボウリング事業を中心に既存施設の売上が前回予想を下回りました。

営業利益及び経常利益については、売上高が前回予想を下回ったことに加え、第3四半期までは、子会社において新規事業である放課後デイサービス及び認可外保育事業のための開業準備費用の負担など販売費及び一般管理費の押し上げ要因がありました。

一方で第3四半期までの低迷を打開すべく、当社における一番の繁忙期である第4四半期会計期間において、フィットネス事業部の移転オープンしたSDフィットネス津藤方店が大成功のスタートを切ったこと、ゲーム事業部における新型クレーンゲームの集中投入による効果が大きく、14四半期ぶりにゲーム事業の売上がプラスに転じたこと、創業99周年プレセール企画による生涯ボウリング投げ放題プラン等の効果があったこと等により、前年同期比較は売上高41百万円増、営業利益89百万円増、経常利益1億円増と一定の挽回はできましたが、とどかず前回予想を下回りました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、売上高・営業利益・経常利益が前回予想を下回ったことに伴い、第3四半期までは低調に推移しましたが、営業利益及び経常利益と同じく第4四半期会計期間を前期と比較して1億67百万円増と一定の挽回はできましたが、とどかず前回予想を下回りました。

3. 配当予想の修正

| | 年間配当金 | | |
|--------------------|--------|-------|-------|
| | 第2四半期末 | 期末 | 合計 |
| 前回予想 | — | 5円84銭 | 5円84銭 |
| 今回修正予想 | — | 1円00銭 | 1円00銭 |
| 当期実績 | 0円00銭 | — | — |
| 前期実績 (平成28年3月期) | 0円00銭 | 0円00銭 | 0円00銭 |

4. 修正理由

当期の配当については、1円配当と復配をすることとさせていただく予定ですが、下記の通りの理由により、期初に公表した配当予想を修正する見込みとなりました。

当社は、「株主への利益還元を重要な経営課題の一つと位置づけており、機動的な利益還元と、経営財務の安定性確保の観点から、当期純利益の水準に応じた業績連動型配当の実施を基本方針とし、配当性向10%～50%目処とすることを基本方針とすることにしており、当期においては連結業績予想に基づいた連結配当性向30%を目安に5円84銭を予想しておりましたが、業績予想の修正に記載したとおり、親会社株主に帰属する当期純利益が20百万円となり、配当性向を約44%とさせていただき、1株当たりの期末配当金を1円00銭とさせていただきます。

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性がありますことをご承知おき願います。

以上



平成 29 年 5 月 12 日

各 位

上 場 会 社 名 株 式 会 社 パ ス ポ ー ト
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 水 野 純
(コード番号 7577)
問 合 せ 先 責 任 者 常 務 取 締 役 管 理 本 部 長
兼 総 合 企 画 部 長 久 保 田 勝 美
TEL (03) 3494-4497

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 10 月 11 日に公表いたしました通期業績予想を、下記の通り修正いたしましたのでお知らせします。

記

●業績予想の修正について

(1)平成 29 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正(平成 28 年 3 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

| | 売 上 高 | 営 業 利 益 | 経 常 利 益 | 当 期 純 利 益 | 1 株 当 り 当 期 純 利 益 |
|-----------------------------|------------|----------|----------|-----------|----------------------|
| 前 回 予 想 (A) | 11,100 百万円 | △310 百万円 | △380 百万円 | △640 百万円 | △50.41 円 |
| 今 回 修 正 (B) | 10,215 百万円 | △552 百万円 | △622 百万円 | △849 百万円 | △66.89 円 |
| 増 減 額 (B - A) | △885 百万円 | △242 百万円 | △242 百万円 | △209 百万円 | — |
| 増 減 率 (%) | △8.0 | — | — | — | — |
| (ご参考)前期実績 (平成 28 年 2 月期) | 10,934 百万円 | 91 百万円 | 59 百万円 | △142 百万円 | △28.22 円 |

(2)修正理由

売上高につきましては、リブランディングの方針で新しいブランドイメージの構築に向け、キャラクター商品を中心に滞留在庫処分に継続して取組み、同時に店舗仕入の統制強化を推進した結果、店舗と商品センターの在庫金額が繁忙期の 12 月末時点で前年比 65% 台まで減少し、1 月・2 月の売上高が直営既存店前年比で 80% 台を割込むところまで減少いたしました。これは新年度からの、新商品投入に合わせた品揃え再編のための布石ですが、繁忙期の補充商品の仕入にも影響が及び、売上高の回復が遅れることとなりました。

利益面につきましても、1 月・2 月と上記のような施策で取り組んだ結果、先に記載したとおり売れ筋商品の補充にも影響が出て、販売の機会損失が発生したため、予想以上に売上高が減少すると共に、売上総利益の減少を招いてしまいました。更に、年間最大商戦の 12 月が暖冬による影響も重なって、既存店売上前年比が 83.1% と落ち込み、予想利益を大きく下回る一因となりました。

一方、販売管理費につきましては、売上高の減少に伴い、売上歩合の店舗家賃が減少し、人件費や荷造運送費などのコスト削減に取り組んだ結果、当初計画に対して大幅なコスト削減を実現しておりますが、売上高と売上総利益の減少幅が大きく、当期純利益は前回予想を下回り、赤字幅が拡大する結果となりました。

(注) 上記の業績予想につきましては、当社が本資料の作成日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、当社を取り巻くさまざまな要因により、記述されている業績見通しとは異なる可能性があります。



各 位

JASDAQ

平成 29 年 5 月 15 日

株式会社アイデアインターナショナル
代表取締役社長 森 正 人

(コード番号：3140 JASDAQ)

問合せ先：取締役経営情報部長
松 原 元 成
(TEL 03-5446-9505)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績の動向等を踏まえ、昨年 8 月 10 日に開示した、平成 29 年 6 月期（平成 28 年 7 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日）の通期業績予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

1. 当期の業績予想数値の修正（平成 28 年 7 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日）

(単位：百万円)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1 株あたり 当期純利益 |
|-----------------------------|-------|------|------|-------|-----------------|
| 前回発表予想 (A) | 7,616 | 264 | 198 | 188 | 15 円 79 銭 |
| 今回修正予想 (B) | 7,700 | 340 | 274 | 264 | 22 円 17 銭 |
| 増減額 (A－B) | 84 | 76 | 76 | 76 | — |
| 増減率 (%) | 1.1 | 28.7 | 38.3 | 40.4 | — |
| (参考) 前期実績 (平成 28 年 6 月期) | 6,160 | 182 | 148 | 223 | 37 円 85 銭 |

(注) 平成 29 年 6 月 1 日付で、株式 1 株につき 2 株の割合で株式分割を行う予定です。平成 29 年 6 月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1 株当たり当期純利益を算出しております。

2. 修正の理由

利益面において、営業利益、経常利益、当期純利益ともに大幅な増益となる見込みです。主な要因は次のとおりです。

住関連ライフスタイル商品製造卸売事業においては、キッチン雑貨を中心としたインテリア商品ブランド「ブルーノ」が好調に推移し、前年同期売上を大きく上回り、中でもデザイン性に優位性のある「ホットプレート」が売上を伸ばしており、「セラミックコート鍋」等のホットプレートのオプション商品も計画を上回ることとなりました。E コマースにおいては戦略的に広告宣伝による販売強化を進めてきた結果、売上が前期よりも大きく上回りました。またデザイン関連手数料収入が増加したこと、経費を計画よりも抑制できたことから、四半期ベースでの売上高及

び営業利益は過去最高を更新し、大幅な増収増益を達成しました。

当社の強みである商品開発力を生かした自社ブランド商品、インテリア雑貨ブランド「ブルーノ」、トラベルグッズブランド「ミレスト」、オーガニックコスメブランド「テラクオーレ」に対して積極的に広告宣伝を投下し、ブランド認知率を高めてきた結果、自社商品売上比率が高まり、利益率が向上してきております。小売事業につきましては直営店舗の出店時期が計画よりも遅れておりましたが、4月に渋谷東急東横、八重洲地下街、名古屋高島屋、ペリエ千葉の4店舗が開店し、今後複数ブランドを取り扱うハイブリッド型店舗や新業態のギフトショップの出店を加速化させることで、収益拡大が見込めると考えております。Eコマースにつきましては引き続き積極的な広告を実施し、ECモールへの出店を加速化させることで大きく収益を伸ばせるものと考えております。またRIZAPグループのシナジーを生かし、グループ各社へ積極的に商品・デザイン等の提案を行なうことで、さらなる収益の拡大を見込んでおります。

(注) 上記の通期業績予想は、現時点における入手可能な情報に基づいており、実際の業績は、様々な要因により予想値と異なる可能性があります。

以上



平成 29 年 5 月 15 日

各 位

会 社 名 株式会社ジーンズメイト
代表者名 代表取締役社長 富澤 茂
(コード番号 7448 東証第一部)
問合せ先 代表取締役専務 砂田真一
電話番号 03-5738-5555

業績予想の開示に関するお知らせ

この度、平成 29 年 3 月 31 日に公表しました「平成 29 年 2 月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)」において未定としておりました平成 30 年 3 月期の業績予想について、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 平成 30 年 3 月期の業績予想 (平成 29 年 2 月 21 日～平成 30 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|---|--------|------|------|-------|-----------------|
| 通期 平成 29 年 2 月 21 日～ 平成 30 年 3 月 31 日 | 11,550 | 300 | 303 | 400 | 34 円 30 銭 |
| (ご参考) 前期実績 (平成 29 年 2 月期) | 9,195 | 829 | 800 | 1,204 | 110 円 16 銭 |

(注)平成 30 年 3 月期は決算期変更に伴い、13 ヶ月 11 日間の変則決算となります。そのため、対前期増減率は記載しておりません。

2. 業績予想の説明

当社は平成 29 年 2 月 20 日をもって RIZAP グループ株式会社の連結子会社となりました。新事業年度(平成 30 年 3 月期)を第二創業と位置付け、RIZAP グループのブランディングやマーケティングに関するノウハウを活かし、「JEANS MATE」のリブランディング、商品力強化、販売力強化、業務再構築に取り組んでおります。

現在、新しい「JEANS MATE」ロゴデザインの店舗看板への更新や売場の刷新を順次進めております。また、「ワケあり本舗」や「STREET」等細分化していた業態を順次「JEANS MATE」に転換し、「JEANS MATE」ブランドの育成・拡大に集中投資いたします。

商品政策につきましては、本年 9 月頃より展開する秋冬商品から大きく刷新します。世界で活躍するパタンナーを 2 名登用し、プライベートブランド商品や別注商品の魅力を飛躍的に向上させるとともに、オリジナルジーンズの開発も進めております。

販売面では、店頭在庫削減やレイアウト変更、マネキン・トルソーの活用で VMD (ビジュアル・マーチャндаイジング) を強化し、商品の付加価値を伝える売場を構築することに取り組んでおります。また、販売計画に基づき商品・販促・販売の連携サイクルの精度を高め、広告等のマス向け施策から販促施策、売場演出まで全てを連動させてまいります。

業務再構築の観点では、MD 計画販売体制に移行し、店頭フェイスプランを活用した適時・適量の仕入コントロールや、主力取引先との協業強化による好調商品群の拡充・不稼働商品の消化促進等を迅速に行う体制の構築に向け取り組んでおります。

以上を踏まえ、売上高は通期で 11,550 百万円を計画しております（平成 29 年 2 月 21 日～平成 30 年 2 月 20 日の 12 ヶ月比較での既存店売上高前期比：119.4%）。

売上総利益率につきましては、前期において滞留在庫の処分を徹底したことや、上述の新しい商品政策に基づき付加価値の高い商品を展開すること等から、通期で 50.0%を計画しております。

販売費及び一般管理費については、「JEANS MATE」のリブランディングを訴求するためのマーケティング費用等を見込み、通期で 5,475 百万円を計画しております。

当期純利益につきましては、店舗の立退き料受取や賃貸借契約に関わる損失等の発生可能性を見込み、通期で 400 百万円を計画しております。

（注）上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

以上



平成 29 年 5 月 16 日

各 位

会社名 夢 展 望 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長 濱中 眞紀夫
(コード：3185 東証マザーズ)
問合せ先 専務取締役管理本部長 田中 啓晴
(TEL. 072-761-9293)

個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

平成 29 年 3 月期（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）の個別業績と前期実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 3 月期通期個別業績と前期実績値との差異

(単位：百万円)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|--------------|-------|------|-------|----------------|
| 前期実績 (A) | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 平成 28 年 3 月期 | 2,460 | △378 | △570 | △107.61 |
| 当期実績 (B) | | | | |
| 平成 29 年 3 月期 | 2,379 | △183 | △184 | △34.84 |
| 増減額 (B-A) | △80 | 195 | 385 | — |
| 増減率 (%) | △3.2 | — | — | — |

※本記載の当期実績は、この開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続きが実施中です。

※本記載数値情報は、表示単位未満の端数切捨て、増減率の小数点以下第 2 位切捨て小数点第 1 位まで記載しております。

2. 差異の理由

経常利益及び当期純利益につきまして、衣料品等の商品原価率の低減に努めたことに加え、商品の発注方法の工夫等による過剰在庫の抑制、販売に関し細かい施策の実施により、商品の消化率の向上及び粗利益率改善に努めました。また、グループ会社である R I Z A P グループ株式会社のトレーニングウェア等の商品にかかる物流管理業務のコンサルティング、グループ会社であるマルコ株式会社の E C 事業推進支援業務を受託するなどグループ会社との協業活動を進めました。さらに当社の物流センターの移設による物流業務の効率化などによるコストの削減にも努めました。その結果、当下半年期のみ業績では営業黒字を達成することができ、上半期までの営業赤字を払拭するまでには至らなかったものの、各店舗軒並み回復傾向が明らかになってきており、今後においても更に回復・成長を加速化していく所存であります。

以上により、前期の経常利益及び当期純利益を大幅に上回る結果となりました。

以上